

株式会社前澤金型

福井県鯖江市

生産性向上 需要獲得 担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

眼鏡の「金型」から「成形デザイン」まで、あらゆるアイデアをカタチにする企業

- 「めがね」を、生体情報のセキュリティ対策・プライバシー保護ツールへ応用し、新たな市場を開拓
- 「めがね」にプライバシー保護機能を付加。3Dプリンター導入による眼鏡製造など付加価値の向上
- 日常生活で違和感なく使えるデザインと機能性を高めた「めがね型プライバシーバイザー」の開発

企業基本情報

所在地	福井県鯖江市石田上町51-11-1
電話/FAX	0778-53-2586/0778-51-3205
URL	www.maezawa-mold.jp
代表者	代表取締役社長 玉田 隆則
設立	1979年
資本金	1,000万円
従業員数	12人



会社概要

「メガネ産地鯖江」で眼鏡精密部品の製造を育んできた、高精度な金型製造・成形技術を有している金型成形の総合メーカー。量産金型の製造から成形部材の量産までを、社内で一貫して対応できる強みを生かし、数々の有名メーカーに採用され、国内外の政治家、スポーツアスリートなどの各界の著名人が愛用するメガネやサングラスなどに使われる部品を世に送り出してきた。近年では3Dプリンターなどの先端設備を導入、ものづくり基盤技術の高度化を図りながら技能の向上に努めている。



会社外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

▶▶▶ プライバシー保護機能で「めがね」の新たな市場開拓

地域資源である「めがね」を、生体情報のセキュリティ対策・プライバシー保護ツールへ応用し、めがねの新たな市場を開拓、地域経済の活性化に寄与。同社は、国立情報学研究所と約4年にわたりプライバシーバイザーの共同研究に取り組んできた。商品化にあたっては鯖江市が運営するクラウドファンディングを活用。自分の顔写真がSNSなどのネット上に上がることで、どこの誰に自分の情報が行き渡ってしまうかを不安に感じ、プライバシー侵害を防止したい意識層などへの普及が見込まれる。



プレス発表の様子

▶▶▶ 「めがね」の機能を視力矯正からプライバシー保護ツールへ

顔などの情報を利用した生体認証サービスの商用利用が本格化する時代に先駆けて、「めがね」を生体情報（顔認証）のセキュリティ対策・プライバシー保護に応用。意図しないスマートフォンやカメラなどの写り込みによるプライバシーの侵害が問題になる中、「めがね」にプライバシー保護（顔認証させない）機能を付加した、めがね型「プライバシーバイザー」を開発。3Dプリンター導入による眼鏡製造など付加価値の向上に資する取組を行っている。



プライバシーバイザー

▶▶▶ 3Dプリンターを活用しめがね型プライバシーバイザーを開発

国立情報学研究所と共同研究されたゴーグルタイプの成果モデル（初期版）を基に、自力で3Dプリンターを用いて、屋外で同様の効果を発揮できる小型軽量化された普及モデルの実現に取り組み、日常生活で違和感なく使えるデザインと機能性を高めためがね型「プライバシーバイザー」を開発した。プライバシー保護の新機軸として既存産業（眼鏡業界）に新たなカテゴリ製品を創り上げ、産官学共同研究の成果から企業が独自解釈を加えて、先端的なものづくりを行った技術移管のモデル事例。



3Dプリンターでの試作造形（設計モデルの比較CG）